

The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

 公益財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

2019年7月 No.31

日本高校生短期訪中事業



今号の内容

- ◇ かめのり同窓会 2019
- ◇ 大学院留学アジア奨学生
奨学生証書授与式
新奨学生の紹介・修了生からのことば
- ◇ 日本高校生短期訪中事業
- ◇ かめのりカレッジ 2019 振り返り
- ◇ 第13回かめのり賞 募集案内
- ◇ 訃報 弊財団会長 相沢英之

かめのり同窓会 2019

2019年3月30日(土)アルカディア市ヶ谷において「かめのり同窓会 2019」が開催され、現役の奨学生8名を含む国内外74名が集結しました。

これまで支援をした大学院生、大学生、中高生、教育関係者の現在数は1500名にのぼり、日本内外の様々な分野で活躍しています。財団では定期的に追跡調査を行っており、2006年の財団発足以来初の同窓会でしたが、初期のメンバーも多く訪れ、久しぶりの再会を喜びとともに国籍や世代を超えて交流を深めました。



国内外から参加した大学院留学アジア奨学生 OBOG と

大学院留学アジア奨学生 新たに2名が奨学生の仲間入り

新奨学生の紹介



Chittarak Chanika

(チッターラーラク チャニカー)

タイ

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科
比較社会文化学専攻 国際日本語領域 (博士後期)

私は日本語教育を専攻し、異文化間コミュニケーションについて研究しています。研究テーマは「タイ人と日本人によるビジネス会話における敬語使用について」です。グローバル時代と言われる現在では、日本国内のタイ人労働者の数は増加し、タイにおける日系企業の数も増えているため、日本人とタイ人が日本語でビジネス会話をする機会が増えています。ビジネス場面における異文化間コミュニケーションでは、敬語が重要です。しかし、非母語話者のタイ人にとって日本語の敬語は非常に困難であり、課題となっています。そこで将来は本研究の結果を活かし、タイ人の敬語理解を促進できるよう、活躍していきたいと思っています。

この度、かめり財団の奨学生として採用していただき、深く感謝しております。奨学生証書授与式と同窓会に参加させていただきましたが、財団の現役奨学生やOBOGと交流することができ、非常に有意義な機会でした。研究のことだけでなく、仕事のことやプライベートのことまで、様々な話題について会話をすることができ、嬉しく感じました。このような異文化交流の場面でも、様々な国から来たかめりファミリーの間の強い絆を感じました。また、研究の道を歩まれてきた方々から「覚悟をしてから研究を進める」という言葉を頂き、非常に勉強になりました。これからかめり財団の奨学生として精一杯で活躍していきたいと思っています。改めてこのような機会をいただき、誠にありがとうございます。



Jariyanusorn Jet

(ジャリヤヌソン・ジェット)

タイ

埼玉大学 人文社会科学研究科
国際日本アジア専攻 (博士前期)

はじめまして。タイのプリラム県から参りました。

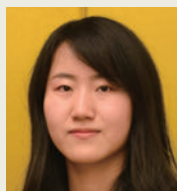
プリラム県では、プリラム・ピタヤコム国立中等教育学校で日本語と日本文化の教師をしていました。今年4月から、休職して埼玉大学の大学院生になりました。

私の研究テーマは「埼玉県のマンホール蓋のデザインをテーマとした日本文化と歴史を学ぶための教材絵本の作成」です。教師として教材が非常に大事なものだと思うので、特に日本文化を教えるとき、新たなインパクトのある教材を作りたいと考えています。日本のマンホール蓋の各デザインからその県のユニークな歴史や文化を調べており、調べた結果をもとに視覚的な日本文化教材を作れば、日本語がわからなくても面白く、また、学習しやすいのではないかと考えています。作成した絵本は、まず実際に自分の授業で活用するつもりです。この絵本を通じて、生徒が少しでも日本文化に興味を持つようになることを期待しています。

これからかめり財団の奨学生として研究を楽しみながら、マンホール蓋だけではなく、日本人、日本語、日本文化、全ての出会いを大切にしていきたいです。将来は教師をしながら、さまざまな教材を作成していきたいと考えます。そして作成した教材がタイの学校で活用され、タイ人が日本のことをより理解し、より好きになってくれたら嬉しいです。

最後になりますが、この度は、かめり財団の奨学生として採用していただき、心より感謝しております。今後、奨学生として、毎日を無駄にならないようしっかりとがんばってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

修了生からのことば



陳 晨

(チン・シン)

法政大学大学院 国際日本学インスティテュート
日本文学専攻 博士課程 在籍

2016年にかめり奨学生として採用され、修了式まであっという間の3年でした。この3年間を振り返ってみると、自分がどれほど幸せなのかを改めて感じます。かめり財団は本当に大きな家族のようで、ここでたくさんの優秀な友達ができました。夏の研修交流会の時も、一緒に遊び、お互いに自分の研究をシェアし、本当に嬉しかったです。かめり財団のおかげで、経済面で苦労をすることなく、留学生活を送ることができました。言葉ではとても伝えきれませんが、3年間本当にありがとうございました。これからも、かめり財団の皆さんとの縁を大切に、感謝の気持ちを忘れずにチャレンジしつづけ、より一層精進して参りたいと思います。



郭 昊

(カク・コウ)

立命館大学大学院 文学研究科
行動文化情報学専攻 博士課程前期課程 修了

孔子曰く「逝く者は斯くの如きか、昼夜を舍かず」。私がかめりファミリーに入って、あっという間に2年が過ぎました。この2年間、本当にありがとうございました。これからもかめりファミリーの一員であることに誇りを持って、社会人として仕事を頑張っていきたいと思っています。そして、皆様のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。かめりファミリーを卒業しても、財団の活動に参加したいと思っています。最後に、新奨学生の皆さん、おめでとうございます！

奨学生証書授与式



新奨学生証書授与



修了生は後輩にエールを送りました

2019年度採用の奨学生が決定し、3月30日(土)アルカディア市ヶ谷にて新奨学生の証書授与式が行われるとともに、本年3月をもち修了した奨学生に記念品が贈呈されました。

今年度の2名の新奨学生はともにタイ出身で、社会人経験を積んだ際に日本語・日本文化に関わっています。そして社会人から日本での研究にキャリアを変更し、研究の成果はいつか日本とタイの相互理解促進や異文化共生に役立てたいと考えているところも共通しています。学問に真摯に取り組み温かい人柄であるふたりが、証書授与式に集まった現役ならびにOBOGの奨学生たちとすぐに打ち解けている様子が印

象的でした。

また今回は4名の奨学生が修了することになり、新たな出発を祝いました。引き続き研究を続けるものもいれば、学業の成果を就職につなげたものもあります。修了生たちは一言ずつ挨拶を行い、奨学生経験を通じて得た縁に感謝の意を述べました。

修了生の1年後輩にあたる現役奨学生たちの壮行の言葉にたくさんの涙が流れ、先輩後輩の垣根を越えて育んだ絆の強さを感じました。同席した関係者たちからも、この光景に胸を打たれたという感想が寄せられ、心温まる式となりました。

2019年3月、日本の高校生を対象に(独)国「日本高校生短期訪中事業」が実施されました

2019年3月14日(木)~21日(木)の8日間の日程で、日本全国から集まった高校生14名・教員3名とともに、中国・浙江省杭州市、江蘇省蘇州市および北京市という三つの都市を訪問しました。参加者のバックグラウンドはさまざまでしたが、「言語がわからなくても、同世代の中国人とコミュニケーションしてみたい」「隣国・中国の現状を自分の目で見てみたい」という共通の参加動機をもって集まりました。訪中前オリエンテーションでは最初に自己紹介を行い、その後事前課題で出されたテーマ(蘇州・杭州の世界遺産、食文化、名産品)について小グループに分かれて発表を行いました。自分たちが訪問する場所の歴史や特徴を調べたことにより、現地で体験したいことが明確になったようです。「京劇の大ファンなので、本場で見る京劇が今から楽しみです」と期待を胸に膨らませる生徒もいました。



訪中前オリエンテーションでの事前課題の発表



李 侑娜
(リ・ユナ)

慶應義塾大学大学院 法学研究科
公法学専攻 博士課程 在籍

とても温かい環境のかめり財団で、3年間、奨学生として在籍しました。経済的な支援だけではなく、一生続く大事なご縁を頂きました。心より感謝を申し上げます。たくさんの優秀な先輩の姿が、自分の成長に繋がりました。大学院生活は、基本的に独りで研究をしている時間が多く、鬱(うつ)になる人も多くいます。研究の成果を出すことも大事ですが、健康で楽しく研究を続けることが、長い目で見れば何より大事です。奨学生の皆さんには、悩みがあったら相談をしたり、趣味でストレスの発散をしたりして、ぶれない強い自分でいてほしいと思います。また、お会いしましょう！



蔡 珂
(サイ・カ)

千葉大学大学院 人文社会科学研究科
文化科学研究専攻 博士課程 在籍

今年の3月を持ち、かめり奨学生を卒業しました。長いようで短い3年間でした。夏の研修交流会やかめりフォーラム&セッションなど、かめり財団の活動にたくさん参加させていただき、いままで経験していなかったことに多く触れました。それらの活動を通じて、現役の奨学生だけでなくOBOGとも交流し、様々な方に出会い色々なことを話し、学校ではなかなか知り得ないことを知り、大変勉強になりました。まだまだ未熟な私でご迷惑もおかけしましたが、3年間ありがとうございました。

業

際交流基金 日中交流センターとの共催事業として

今回訪問する杭州市、蘇州市は江南地域にあり、日本から飛行機で3時間ほどかかります。杭州および蘇州市の市内見学では旧所名跡と現在の街並みを見学しました。蘇州と杭州は中国の古都であり、世界遺産に登録されている蘇州の庭園や杭州の西湖があります。到着時、夕暮れ時の西湖の風光明媚な景観に参加者たちの心が洗われました。一方、市の中心部には高層ビル群や高層マンションが立ち並んでおり、中国の都市の目覚ましい発展を感じることができました。最後に訪れた首都である北京市では、天安門広場、故宮博物館の見学を行いました。広場も博物館も想像以上の広さと大きさと、生徒たちは大変驚いていました。

青少年交流が主である本事業の特徴として、普段の旅行では行くことができない現地の学校訪問とホームステイがあります。杭州では杭州外国語学校、浙江工商大学、蘇州では蘇州外国語学校に訪問し、現地の高校生や大学生と交流しました。どの学校に行っても大歓迎いただき、交流会では日本人高校生ひとりに対して中国人生徒や大学生が5、6人がかりで対応してくれました。現地の生徒または大学生の日本語レベルはさまざまで、中には上手に話せる人もいますが、勉強を始めて数年の現地の生徒は同級生と助け合いながら日本語を話していました。日本人生徒も中国人生徒も、辞書を引いたり紙に漢字を書いたりしながら意思疎通を図りました。ホームステイをした際には、ホストファミリーと話すことに苦労したようです。事業後の

浙江工商大学の学生との交流会



事業総括で発見したことを発表

蘇州外国語学校ホストファミリーと



杭州外国語学校での交流会



日本のポップソングでみんなで踊りました

感想では、「パディとは英語で様々なお話をして過ごせた一方で、家族の方とは翻訳アプリを使いながらお話をしたので苦労する時もありました。その時に私が大切にしたいのが顔の表情とジェスチャーです。同じ言語で直接話せなくても、それらによって相手に思いや感想が伝わるのだと実感しました」という声がありました。生徒たちは現地の人と話すことで彼らが日本に大変興味

を持っていることを知ったほか、ホストファミリーから手厚いおもてなしを受けたことで、中国への認識や思いが大きく変わったようです。

この事業により隣国・中国のことを理解する第一歩を踏み出した参加者には、今後も語学や文化などの勉強を通して異文化交流や多文化共生に取り組んでほしいと思います。

報告：かめのり財団 齋木 香澄

参加した生徒の声

今回の事業参加の感想を一言で表すと「為」です。自分が主体的に中国の方と交流を行えたこと、五感を使って中国を感じたこと。そしてその体験を伝えること。その中で、方法は何であれ自分の意志や思いを相手に伝えることで次の1ページが開かれることを痛感し、この字を選びました。特に、予想を遥かに上回る中国の学生の勉強時間やアニメの分野を中心に広く周知されている日本文化など、驚きや新たな発見に満ち溢れた時間でした。もしまたこのような機会があれば、自国についての理解をより深めた上で臨みたいです。

そして杭州市を訪問した際、世界遺産の西湖で、夕日が橋の上にいる人々や水面を照らしていた風景を見たことが今でも忘れられません。今回の経験を自分の中だけに留めておくのではなく、一人でも多くの人に伝え、国際交流や中国に興味や関心を持ってもらえるようにしていきたいと思っています。

修道高等学校 神田 真明

かめのり同窓会 2019

74名全員で



現役生含め大学院留学アジア奨学生を中心に、かめのり財団の留学奨学事業と青少年交流事業に参加したことのある74名があつまり、海外からは中国、韓国、カンボジア、タイ、フィリピン、インドネシアのOBOGが13名来日しました。常務理事 西川雅雄の主催者挨拶では「多文化共生を学び、厚い壁を乗り越えて友情を育んだ経験をもとに、それぞれの国が仲良くなるような活動をつづけてほしい」と、評議員で奨学生選考委員を務める野村彰男氏は乾杯の挨拶で「仲間と出会い、あたらしい道を切り開くと人生観も変わる。同窓会は貴重な人生の糧になることでしょう」と話しました。

つづいて、再会を祝福し、民族歌舞団「荒馬座」による日本の太鼓や踊り、笛による桜の季節にちなんだ曲の演奏、そして獅子舞の獅子が参加者の厄除け、無病息災を祈って頭を噛みながら練り歩くと、会場にはたくさんの笑い声が起りました。次に同窓会に参加した財団役員が参加者たちに一層の活躍を祈念し、一言ずつメッセージを送りました。

その後、プログラムごとに参加者たちが登壇し、74名ひとりひとり現在の所属や近況につい

て報告を行いました。元奨学生は、本国や日本で研究を続ける人もいれば、日本の企業やグローバルカンパニー、交流団体で活躍している人もいます。高校生や中学生で過去のプログラムに参加した面々も、様々なジャンルで進学や就職の報告がありました。「フィリピンに派遣されたことで平和を考えるようになり、将来は国際平和に貢献する仕事がしたい」「プログラムを通じて多国籍の、様々な宗教の人と交流をしたことをきっかけに、大学は法学部を選択し、法整備を学びたいと思っている」など事業やプログラムでの体験が、現在の学びや将来の目標につながっている参加者も多くいました。

参加者代表の挨拶では、最初の奨学生である姜性湖(カン ソンホ)が、奨学生へのサポート体制が初期のころより充実していることに触れ「みなさんにはチャンスが増えています。進路はそれぞれだと思うが、自分のやりたいこと、好きなことをこれからも打ち込んでほしい」と後輩たちへエールを送りました。また、2008年にアジア・オセアニア高校生交換留学でタイに派遣された佐藤亜美は、現在、地元京都でゲストハウスを営んでおり日頃から国内外の観光旅行者と接



康本評議員



海外から駆けつけてくれた元奨学生達

する中で、人とのつながりや交流を大切に考えていることを話しました。

同窓会は活況なまま終了の時間をむかえ、評議員の康本健守が閉会の挨拶を行い、同窓会を再び行うことを約束し「懐かしい面々に再会できてうれしかった。みなさんのさらなる成長を楽しみにしています」と締めくくりました。



初対面でも会話が盛り上がります



沢山の仲間が集まりました



大学院留学アジア奨学生 OBOG



荒馬座によるパフォーマンス

かめのりカレッジ 2019 振り返り

普段はビジネスパーソンを対象に研修や講演をすることが多いのですが、今回初めての経験として、大学生を対象とした研修の企画・デザイン、そして実施運営を担当させていただきました。2018年の4月から構想を練り始め、具体的なプログラムのデザイン、参加者の募集・選抜等を経て2019年2月末に実施し、合宿から3ヵ月後の5月25日(土)には「振り返りセッション & 修了式」を行い、各人に自らの学びと今後の成長へのアクションを発表してもらいました。

結果として、参加者の英語のレベルが比較的高く、留学の経験や予定のある参加者も多かった為、プログラム自体は極めて円滑に、かつ効果的に運営することが出来ました。また、一定の基準を満たしており、かつある程度実績のある少数の学生を更に押し上げるという観点では、大いに意味があったと考えています。一方、中には今までは新たな挑戦に踏み込まず、今回のプログラムを契機に自らの変身を遂げようとしていた参加者も現れました。

ますます激化するグローバルな環境の中では、特定のリーダーだけがグローバルに向き合

うのではなく、より多くの人材がそれぞれの役割のなかでグローバルとの関わり合いを有することが求められると思います。意欲もあり優秀であるにもかかわらず、残念ながら学生時代にその機会に恵まれず、また「受験英語の呪縛」から逃れられず苦悶するリーダー候補の背中をグローバルに向けて押してあげることが必要だと考えています。私自身を含め、研修や様々な機会を経て、多くのビジネスパーソンがそのハードルを越えているのを目撃しており、今回のケースでいえば、後者の参加者にあてはまると考えています。

既に来年の計画を立案中ですが、今回は日本全国のグローバルへの意欲は高いが今一步踏み込まずに足踏みしている将来有望な大学生を対象にすることを考えたいと思っています。該当者の募集は必ずしも容易ではないかもしれませんが、一人でも多くの将来のグローバルリーダー候補を「かめのりカレッジ」を通じて輩出できればと考えています。

報告：かめのりカレッジ プログラム・ディレクター / 講師 山本 智巳(グローバルビュージャパン代表)



修了式



振り返りセッションでのプレゼンテーションは投票で1位を決定

訃報

弊財団会長 相沢英之



弊財団会長兼理事の相沢英之(あいざわ ひでゆき)が去る2019年4月4日(木)、永眠いたしました。享年99歳。ここに生前のご厚誼に深く感謝するとともに謹んでお知らせ申し上げます。なお、6月18日(火)には東京プリンスホテル「鳳凰の間」にて故人を偲ぶ会が営まれました。

相沢は大変にユーモアに富み慈愛に満ちた人柄で、財団の設立にあたっては骨身を惜みず、設立後も会長兼理事として長年財団の振興に寄りました。シベリアでの抑留経験があった相沢は、戦争は人間の英知を尽くして避けるべきものであり、国と国の複雑な関係を良好するのは人と人とのつきあいかからと説きました。

第13回かめのり賞 募集案内

第13回かめのり賞の募集をします。応募区分はかめのり大賞<草の根部門><人財育成部門>かめのりさきがけ賞の3つです。多くの方からのご応募をお待ちしております。
締切：2019年9月30日(月)必着

詳しい募集要項や応募用紙は、ホームページよりダウンロードできます。

第13回かめのり賞募集要項 で検索
<http://www.kamenori.jp/kamenorishou.html>

今後の予定

- 7月 かめのりスクール 2019 / 第6回高校生カンボジアスタディツアー
- 8月 第12期高校生短期交流プログラム(派遣・韓国) / にほんご人フォーラム 2019
- 9月 大学院留学アジア奨学生 夏の研修交流会(函館)
- 11月 第11回中学生交流プログラム(派遣・インド)

発行人 / 西田 浩子 編集 / 堀井 玲子 デザイン / イワブチサトシ (BUTI design) 印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-5 ベルビュー麹町1階

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : <http://www.kamenori.jp/>